

# 能

## NOH DRAMA

【日本語版】

文部省特選  
日本紹介映画コンクール金賞



【企画】  
外務省  
【製作】  
桜映画社

## 【解説】

六〇〇年の歴史を経て、今なお生きつづけている重厚なドラマ、能は、日本が世界に誇りうるものの一つである。

能の大成者、世阿弥は、それまでの日本の民俗芸能がもっていたドラマ性やスベクタクルな要素をあえて取り去り、ものあわれとも幽玄ともいわれる純粋な美のイメージを、詩と音楽と舞によつて舞台の上に見事に構成した。

この映画は、舞台の能を容易に観ることができない諸外国の人びとを対象に、すぐれた演目とその名場面を観せながら、能の特質を語つたものだが、それはそのまま今日の大方の日本人にも当てはまる。とくに若い人たちが、普段能にふれることのない人たちには、能の誘いととなり、生きた入門書ともいふべき必見の教養映画である。

## 【映画の構成】

### 【藤戸(ふぐと)】

能には、戦争の哀話に取材した作品がいくつもある。「藤戸」は、「平家物語」にある話をもとに、戦争の犠牲になつて殺された若い漁師とその母の慟哭を、生と死にわたつて構成したドラマで、深い感動を与える。名もない庶民のなげきを深くえぐつた作意は見事である。



能ではしばしば亡霊が登場する。「藤戸」では前段で殺された漁師の母が登場し、後段で殺された若い漁師の亡霊が現れる。この前シテと後シテは同じ役者が演じる。シテやワキのセリフをうけて、地謡方が合唱する。地謡は、役者のセリフを代弁したり地の文をうたうが、言葉は美しい詩になっている。

能は六〇〇年昔に、それ以前の日本民俗芸能のいいところを吸収して完成したもので、曲目の中にはテンポの早い舞いやドラマチックな見せ場のあるものも少くない。

### 【猩々(しょうじょう)】

非常に古い能で、海に棲む妖精が不老長寿の酒を与えるというもの。ほろ酔いの妖精が波を蹴つて楽しく戯れる。能の動作は足の舞踊といわれる。めでたい祝いの能である。



### 【高砂(たかさ)】

よく知られた祝言能で、「高砂や……」という前半に登場する老夫婦が眼に浮ぶが、これは後半の若い男神の颯爽たる舞いである。



### 【土蜘蛛(ちぐも)】

能には劇的、シヨウ的な見せ場のあるものも少くない。これは昔の勇猛な武将が、怪物(大きな蜘蛛を退治するというもの)。



### 【道成寺(どうじょうじ)】

これは後に歌舞伎の原作にもなっている。桜の花が散る夕暮れの寺を背景に描いた、若い娘の悲恋のドラマで、前段のヤマ場を見せる。



## 能舞台

能舞台には、観客と舞台をへだてる幕がない。この四本の柱に囲まれた奥行きのある真四角な舞台と橋掛りと呼ばれる舞台の延長。——これだけで特別な背景も、装置もない。

静かに出を待つ客席。——ハヤシと、地謡(じうたい)方が音もなく登場する。……やがて、ハヤシの音楽が登場人物をさそい出す。橋がかりの奥に見える揚幕の中の鏡の間。能役者はここで精神を統一して面(おもて)をつけて出を待つ。

### 【松風(まつかぜ)】

最後は、能の最高の傑作の一つといわれる「松風」で、身分のいやしい汐汲み女だが姿も心も美しい少女のいぢずな恋を描いている。能の名作には、愛のきずなやはげしい慕情に純粋な永遠の美を見出し出しているものが多い。能は象徴の芸術といわれるが、実はしっかりと写実を土台に、人間の深い感情を描いてそれをあくまで内にこめて表現している。



能が生まれた時代には、肉体は土に帰るが、心はいつまでも生きつづけると信じられていた。時代は変わっても、人の心は変わることなく今に生きている。

人びとは、能の力づよい独特のリズムにひかれて、気忙しい現代からのがれるように能楽堂に足を運ぶ。

# 能

## 『能』の日本語版 完成に寄せて

横道萬里雄

この映画の製作当時は、また能の認識が今日のようにではなかった。優雅だが古めかしい舞台芸術というのが一般の見方だったので、この作品に関係した一同は、能の真の姿を限られた長さの中になんとか多角的に盛り込もうと、苦心を重ねた。

まず、現代人に受け入れられる演劇性を備えた演目として「藤戸」と「松風」をやや長く、前後に据えた。

間に、先行する民俗芸能との関わりという点で、「高砂」と「土蜘蛛」を、また能の舞踊性と技法の多様性を見るために「猩々」の乱（みだれ）と「道成寺」の見せ場を加えた。

演者も観世、宝生、金春、喜多のシテ方四流をはじめ主な流派の代表的な名手を揃えることができた。

このたび初めて完成した日本語版を見直してみても、これだけ目の詰まった作品を作るのは、現在でも容易ではあるまいという思いが大きい。

それに、出演の人びとの多くはすでに故人であるが、その至芸に接することができるとも映画ならではのことで、感慨無量である。

### 【出演の人びと】

- 【藤戸】 後藤得三
- 【猩々】 梅若六郎
- 【高砂】 宝生英雄
- 【土蜘蛛】 桜間道雄
- 【道成寺】 観世静夫現・観世鏡之丞
- 【松風】 観世寿夫

- 笛 寺井政教 藤田大五郎
- 小鼓 北村一郎 幸宣佳 三須錦吾
- 大鼓 亀井俊雄 安福春雄 ● 太鼓 柿本豊次
- ツレ 梅村平史郎（土蜘蛛）野村四郎（松風）
- ワキ 松本謙三（藤戸）宝生彌（松風）

### 【製作スタッフ】

- 監修・指導 横道萬里雄
- 脚本・監督 村山英治
- 撮影 前田実
- 木塚誠一
- 照明 菱沼啓吉
- 録音 岡崎三千雄
- 編集 沼崎梅子
- 解説 観世栄夫

16ミリカラー・30分

● 【価格】

16ミリ＝200,000円

【製作】  
株式会社

## 桜映画社

東京都渋谷区代々木1-57-1 代々木センタービル  
〒151 TEL 03(3320)6311 FAX 03(3320)7666

【配給】